

抜群の仕上がりで王道走った！ 権藤俊光がオール3連対V



桐生

10/24~29 サッポロビールカップ

1	①	権藤 俊光 (37)	大阪	①	06	211111131
2	②	坂本 雄紀 (30)	群馬	②	05	211312241
3	⑤	谷野 鎌志 (40)	静岡	⑤	08	231122212
4	③	吉田凌太郎 (31)	愛知	③	07	116314621
5	④	平田 忠則 (47)	福岡	④	11	112312432
6	⑥	寺島 吉彦 (38)	東京	⑥	10	25313142
①② 320円(1) ①②⑤ 1010円(1) 逃げ						

11/7~12 第10回太田双葉CCカップ DS開設11周年記念

1	④	松田大志郎 (36)	福岡	④	11	1313651152
2	①	笠原 亮 (44)	静岡	①	22	2112112121
3	②	河村 了 (40)	愛知	②	20	1511222121
4	③	今泉 友吾 (34)	東京	③	18	2411332141
5	⑥	飯島 昌弘 (51)	埼玉	⑥	19	214252432
6	⑤	橋本 久和 (54)	群馬	⑤	17	132334252
④① 1590円(5) ④①② 5570円(16) まくり						

11/16~20 第19回公営レーシングプレス杯 3支部ガチ対決

1	①	豊田健士郎 (28)	三重	①	10	42131551
2	③	坂本 雄紀 (30)	群馬	③	11	42落21661
3	⑥	菊池 峰晴 (56)	群馬	⑥	10	32251312
4	②	加藤 政彦 (40)	東京	②	13	14215241
5	⑤	宇留田翔平 (27)	三重	⑤	09	311512
6	④	亀山 雅幸 (41)	群馬	④	13	3411322
①③ 390円(2) ①③⑥ 3520円(15) 逃げ						

〔10月24日〕GⅢサッポロビールカップ〕権藤俊光が通算8回目、桐生では2回目のVを果たした。周年記念で毒島誠が立て直したエンジンを引き、当節はレース足を中心にトップクラスの仕上がりを。予選1位で準優1着、途中の一般戦も含めてオール3連対で勝ち上がり、最後もインから他選手を寄せ付けずに圧倒した。2着は桐生フレッシュユルキーの坂本雄紀。1Mは全く仕事ができずに地元初Vは持ち越しとなったが、道中で谷野鎌志に競り勝ち好ファイトを見せ、期末のA2級勝負駆けにも成功した。

〔11月7日〕第10回太田双葉CCカップ〕DS開設11周年記念〕機技充実の笠原亮と河村了がシリーズを先導した。ともに準優進出戦、準優を勝ち上がり、順当に優勝戦の内枠に並んだ。基本的には逃げる笠原、差す河村のV争い。穴を狙うなら決定力のある松田大志郎という構図

〔11月16日〕第19回公営レーシングプレス杯〕3支部ガチ対決〕V候補筆頭の江口晃生が予選でまさかのFに散った。桐生でのFは2010年1月以来で通算3本目、進入が完全な内志向になってからは初めての勇み足だった。予選1位の奮闘を見せた富澤祐作も準優で4着に敗れてしまった。その結果、三重の豊田健士郎がイン逃げて優勝。節間、機力不足を技量で補い、7月の徳山GⅢ以来で今年8回目、通算23回目、桐生初Vとなった。なお、地元期待の坂本雄紀は準優で4カドまくり。優勝戦は3カドからのまくり差したが及ばず、またしても準優勝に終わった。

〔11月7日〕第10回太田双葉CCカップ〕DS開設11周年記念〕機技充実の笠原亮と河村了がシリーズを先導した。ともに準優進出戦、準優を勝ち上がり、順当に優勝戦の内枠に並んだ。基本的には逃げる笠原、差す河村のV争い。穴を狙うなら決定力のある松田大志郎という構図

〔10月24日〕GⅢサッポロビールカップ〕権藤俊光が通算8回目、桐生では2回目のVを果たした。周年記念で毒島誠が立て直したエンジンを引き、当節はレース足を中心にトップクラスの仕上がりを。予選1位で準優1着、途中の一般戦も含めてオール3連対で勝ち上がり、最後もインから他選手を寄せ付けずに圧倒した。2着は桐生フレッシュユルキーの坂本雄紀。1Mは全く仕事ができずに地元初Vは持ち越しとなったが、道中で谷野鎌志に競り勝ち好ファイトを見せ、期末のA2級勝負駆けにも成功した。

〔11月7日〕第10回太田双葉CCカップ〕DS開設11周年記念〕機技充実の笠原亮と河村了がシリーズを先導した。ともに準優進出戦、準優を勝ち上がり、順当に優勝戦の内枠に並んだ。基本的には逃げる笠原、差す河村のV争い。穴を狙うなら決定力のある松田大志郎という構図

(スポーツ報知・佐々木伸)



伸び仕様の調整ピタリ！ 島田賢人が今年4度目V

11月1日からは4日間開催の「TAMRON CUP」。タービの次の節で、SGに出場したモーターと不出場のモーターで機力差がかなりあり、実力者の徳増秀樹は低調機に苦戦。タービの回りと直線系のバランスが整わず、予選敗退に。伏兵級の活躍が目立つ中、優勝戦の1号艇を手に入れたのは清水攻二だった。実戦系の足が良く、オール舟券絡みと安定。優勝戦は10年振りのVを目指す戦いとなったが、レースを制したのは地元

11月15日からは4日間開催の「大宮アルディージャカップ」。伏兵陣のなかで奮闘が目立ったのが村松栄太。当地初出場ながら、レース足を武器に道中競りで見せ場を作った。予選ラストの大敗で、優出はならなかったが、関東のファンに名前を売る走りで見せた。優勝したのは仲谷颯仁。出足を中心に仕上げ最後はイン逃げて今年3度目のVを決めた。(ガイド・長谷川)

11月1日からは4日間開催の「TAMRON CUP」。タービの次の節で、SGに出場したモーターと不出場のモーターで機力差がかなりあり、実力者の徳増秀樹は低調機に苦戦。タービの回りと直線系のバランスが整わず、予選敗退に。伏兵級の活躍が目立つ中、優勝戦の1号艇を手に入れたのは清水攻二だった。実戦系の足が良く、オール舟券絡みと安定。優勝戦は10年振りのVを目指す戦いとなったが、レースを制したのは地元

11月15日からは4日間開催の「大宮アルディージャカップ」。伏兵陣のなかで奮闘が目立ったのが村松栄太。当地初出場ながら、レース足を武器に道中競りで見せ場を作った。予選ラストの大敗で、優出はならなかったが、関東のファンに名前を売る走りで見せた。優勝したのは仲谷颯仁。出足を中心に仕上げ最後はイン逃げて今年3度目のVを決めた。(ガイド・長谷川)

11/1~4 TAMRON CUP

1	④	島田 賢人 (36)	埼玉	⑤	12	1622222
2	③	石塚 久也 (43)	埼玉	③	10	151412
3	②	中村 辰也 (36)	長崎	②	09	41131
4	①	清水 攻二 (50)	山口	①	05	32121
5	⑤	長尾 章平 (39)	山口	④	14	343112
6	⑥	出畑 孝典 (45)	福岡	⑥	16	633211
④③ 1660円(7) ④③② 8970円(40) まくり						

11/7~12 オールレディース・大宮アルディージャイベントス杯

1	①	松尾 夏海 (33)	香川	①	10	141133151
2	③	浅田千亜希 (52)	徳島	③	10	313132121
3	⑤	加藤 綾 (41)	三重	⑤	17	133245112
4	④	細川 裕子 (42)	愛知	④	20	222422522
5	⑥	遠藤 エミ (36)	滋賀	⑥	20	115141312
6	②	平山 智加 (39)	香川	②	13	321241141
①③ 500円(2) ①③⑤ 2790円(8) 逃げ						

11/15~18 大宮アルディージャカップ

1	①	仲谷 颯仁 (30)	福岡	①	07	222123
2	②	佐々木和伸 (48)	徳島	②	09	12216
3	⑥	平尾 崇典 (52)	岡山	⑥	19	242621
4	⑤	古結 宏 (47)	兵庫	⑤	13	133431
5	③	金子 猛志 (53)	群馬	③	08	14222
6	④	濱崎 直矢 (41)	埼玉	④	12	261134
①② 390円(1) ①②⑥ 2510円(12) 逃げ						

江戸川



3コースから圧巻のまくり 永井彪也が約1年ぶりV



永井彪也



三角哲男

11/18~22 ういちの江戸川ナイスらっっ!カップ

1	③	永井 彪也 (32) 東京	③	10	122223
2	②	松崎祐太郎 (37) 福岡	②	17	1532121
3	①	三角 哲男 (57) 東京	①	05	4211121
4	⑥	小林 孝彰 (24) 福井	⑥	31	212413
5	④	関根 彰人 (40) 埼玉	④	30	331221
6	⑤	田中 駿兵 (22) 徳島	⑤	29	1152312
		③② 2360円(7)	③②① 3870円(14)	まくり	

10月17日の燃料保管庫からの出火で休場となっていた江戸川ボートだが、ちょうど1か月後の11月18日の一般戦で再開された。火災自体は残念な出来事ではあったが、一人の負傷者も出さなかった防災対応と、わずか1か月での開催復帰にこぎつけた復旧作業の迅速さは素晴らしい。関係者の方の並々ならぬ尽力を思わせた。

その努力にも報いてか、復活開催は終始天候にも恵まれて、穏やかな水面状況に。シリーズをけん引したのは地元ベテランの三角哲男。予選4日間を7戦4勝2着2回の安定した走りで行った。出足は負けることがない」と好仕上がりでのV戦1号艇。ただ、最後をさらったのは同じ東京支部ではあったが、若手の永井彪也だった。当節の永井は予選を6戦オール舟券絡みの成績で優勝戦3号艇にこぎつけたが、勝ったのは初戦選抜の1号艇のみ。「伸び型で好み

の感じではないし、正味大した足では」と仕上がりに不満の状態。だが、5日目最終日は「ずっと一日調整して最後は好みの感じに出来ていた」と、3コースからコンマ10スタートながら抜群の加速で伸び上がる。1Mは迷わない全速攻撃。イン三角をまくり一撃で優勝を果たした。永井はこれが去年12月の多摩川以来で約1年ぶりの優勝。通算では18回、当地では4回目のV。勝ち上がり後は終始ほがらかな笑顔で「最近(優勝が)年1回くらいになってしまっているけど、これをいい弾みにしたいですね。今回は最後にいい調整が出来たし、来年のGIに呼んでもらえたら、この調整を生かして頑張りたい」と話している。また最後につけ加えて「レースができることに感謝してこれからも走っていきたいですね」と地元水面の復活にも感謝の言葉を忘れなかった。

(野添)

混戦の1Mを抜け出した！ 仲航太が待望のデビュー初優勝



10/27~30 市制施行70周年記念第23回府中市市長杯

1	③	笠原 亮 (44) 静岡	③	13	322131
2	④	安河内 将 (35) 佐賀	④	21	142213
3	⑥	大澤 風葵 (23) 群馬	⑥	16	22142
4	①	河合 佑樹 (37) 静岡	①	14	311212
5	②	渡邊 和将 (34) 岡山	②	04	351211
6	⑤	松尾 光広 (34) 岡山	⑤	18	23122
		③④ 4210円(15)	③④⑥ 21090円(61)	まくり差し	

11/6~11 トランスワートトロフィー東京大阪福岡三都市対抗戦

1	⑥	仲 航太 (24) 東京	⑥	21	21642422
2	④	福島 勇樹 (45) 東京	④	21	361421422
3	①	白水 勝也 (52) 福岡	①	13	612311161
4	②	笠置 博之 (34) 大阪	②	14	24312151
5	⑤	権藤 俊光 (37) 大阪	⑤	19	332335232
6	③	三角 哲男 (57) 東京	③	17	224434241
		⑥④ 10690円(27)	⑥④① 46120円(107)	抜き	

11/16~21 BOATBoyカップ〜ヤングvsベテランバトル〜

1	④	大賀龍之介 (27) 福岡	④	12	21431242
2	①	三寫 誠司 (56) 香川	①	19	351222141
3	②	中村 日向 (26) 香川	②	26	215115131
4	⑥	平田 忠則 (48) 福岡	⑥	13	531144122
5	⑤	井本 昌也 (27) 山口	⑤	12	341331322
6	③	仲 航太 (25) 東京	③	16	14462311
		④① 8040円(26)	④①② 27620円(84)	まくり差し	

10月27日初日「府中市市長杯」では、渡邊和将が初降ろし以来鳴かず飛ばずだった劣勢機を整備とペラ調整によって蘇らせ、不利評を覆す活躍。一方では、チャレンジカップへの出場ポードー近辺にいた河合佑樹も連日に渡って気合の走りを披露し、渡邊を抑えて優出1枠の権利を獲得。優勝戦を無事故完走ならチャレンジカップ出場、という微妙な立場にあった河合は、向かい風の強い優勝戦ではダッシュ乗りが悪くなり、同時にジカまくりに出た渡邊も1マークの切りシロを失ったため、外側の選手にVチャンスが到来。勝機を逃すことなくまくり差して突いたのは笠原亮で、渡邊の平和島連覇という夢を碎き、逆に自身が当地連勝優勝に成功。

続く「東京大阪福岡三都市対抗戦」では、準優1枠勢の中からただ一人逃げた白水勝也にVチャンスが訪れたが、優勝戦では笠置博之がジカまくりという強襲策を選択したため、抵抗した白水のイン旋回は軌道が大きく、仲航太は最内差しから2マーク先制して先頭浮上。仲はフレッシュルーキーを務める純地元水面での初Vにゴール後は喜びを爆発させ、ガッツポーズ。なお、仲を含めて優出組に3名を輩出した東京は、三都市間の争いも制して総合優勝。

『ヤングVSベテランバトル』は45歳以上と20歳代の対戦企画。予選道中では各世代3人ずつという番組が組まれ、世代間の競走意識をおおった。優出1枠の三寫誠司は勝てば何と3年半ぶりという超久々の平和島Vに。一方、連続あっせんだった仲は前回の相棒・40号機を再び引き当てる奇跡を起こして活躍。優勝戦では仲と三寫の意地が1マークで衝突する展開となつてもつれ、まくり差しの大賀龍之介が1マークを突破。仲に続き、こちらも嬉しいデビュー初V達成となった。(ガイド・長船)

絶好枠が転がり込んだ 小野生奈が当地初優勝!



小野生奈



倉持莉々

11/13~18 ヴィーナシリーズ第17戦是政プリンセスカップ

1	①	小野 生奈 (36)	福岡	①	04	121123151
2	④	倉持 莉々 (31)	東京	④	12	212511222
3	③	刑部亜里紗 (27)	静岡	③	18	441223441
4	⑥	永井 聖美 (45)	東京	⑤	16	322143252
5	⑤	清水 愛海 (24)	山口	⑥	18	325221212
6	②	勝浦 真帆 (28)	岡山	②	14	114312141
①④		380円(2)	①④③	1690円(7)	逃げ	

11月13日から「ヴィーナシリーズ第17戦是政プリンセスカップ」が開幕した。モーター抽選では直前のウエイキークップを制した吉田拓郎の52号機を中尾優香が引いた他、向井田真紀、中嶋世奈とどちらかと言えば伏兵が近況の上昇モーターを手にした。

ドリーム戦は2日に分けて行われ、ともに1号艇から逃げ切った守屋美穂と小野生奈が激しい得点首位争いを演じる。3日目終了時点でトップに立ったのは小野だが、守屋が4日目に執念の連勝劇で逆転1位通過。2位に小野。近況絶好調の勝浦真帆が3位通過となった。

迎えた準優は勝浦と小野は逃げたものの12Rで波乱が待っていた。インの守屋がスタートで遅れてしまい、3コースから清水愛海が勢い良くまくる。そこを突いた刑部亜里紗が清水を抑えて2M先取。守屋は3着で優出はかなわず、小野にポールポ

ジションが巡ってきた。優勝戦は刑部と清水がピット離れて遅れたが、小野はモノともせずコンマ04の好スタートから一気に先マイ。4カドから舟を伸ばしてきた地元の倉持莉々がまくり差してきたが、BSで先頭に立った小野が多摩川初優勝を決めた。

「スタートは速いと思ったけど莉々ちゃんが特訓からバシバシきていたので放れなかった。でも入っていると行って行きました。(1Mは)流れたので差されたと思っただけ直線を書いてからの足は良かったですね」と小野は笑顔でレースを振り返った。今年は3本のFを切り、「自分の中でも考え直さなければいけない1年でした」と反省。それでも今年の走り納めとなる次節の三国71周年記念に向けて「今年の全てをぶつけたいです」とファンに向けて力走を誓っていた。(トーチユウ・白川)



デビュー初優勝の地で… 新田雄史がイン完封ショー

【静岡朝日テレビサンライズカップ】戦前に注目を集めたのが地元133期の村松将平。前走地の桐生でデビュー初勝利を含む3勝をマーク。勢いに乗っての参戦となった。地元初勝利と予選突破を目標に掲げて臨み、予選は未勝利も得点率18位で準優進出。準優は6着に敗れて優出はならなかったものの、思い切りの良さと、冷静さを持ち合わせたレースぶりが印象に残った。今後の成長に期待したい。

さて、シリーズは西村拓也が優勝戦1枠をゲットした。初日ドリーム戦での接触で、ボート交換。これが吉となり「下がっていた」と嘆いた気配が一変。ファイナルを危なげなく逃げ切り今年2度目の優勝を飾った。

【オレンジリボン運動支援競走 BTS玉川26周年記念 Wave21杯】新田雄史にとって浜名湖は思い入れの強い水面。05年5月のデビュー戦に07年9月のデビュー初優勝。さらにSGデ

ビューを果たしたのが10年のオールスターも当地だった。しかし、22年8月のSGメモリアル優勝戦でまさかのフライング。それだけに、どうしても汚名を返上したかった。絶好枠で臨んだファイナルは「迷惑をかけてるんで…。とにかく1艇身を」と、スタートに全神経を集中すると、本番ではコンマ14とまさきに勘通り。誰も寄せ付けずに逃げて無念を晴らした。

【オレンジリボン運動支援競走 中京スポーツもみじ杯】予選トップ通過の松下一也は準優で2着に敗れ、4枠での優出。「横に滑ってました。回り過ぎ」と調整にずれを覚えた。そこで、最終日は朝から試運転とペラ調整を入念に繰り返し、左右非対称の形状に正解を見いだした。ファイナルは4カドからスロー勢を一蹴。松下らしい会心の走りっぷりで優勝。AI級返り咲きへ最高のスタートを切った。

(MOCHI)

10/23~27 静岡朝日テレビサンライズカップ

1	①	西村 拓也 (37)	大阪	①	12	13125131
2	③	坂井 康剛 (44)	佐賀	③	14	3523121
3	⑥	小坂 尚哉 (38)	兵庫	⑥	13	22436212
4	⑤	丹下 将 (38)	愛知	⑤	13	2113632
5	④	實田 亮治 (55)	福岡	④	17	1432152
6	②	森永 淳 (43)	佐賀	②	11	6331111
①③		800円(2)	①③⑥	3770円(14)	逃げ	

10/31~11/4 BTS玉川26周年記念 Wave21杯

1	①	新田 雄史 (39)	三重	①	14	21223221
2	⑥	畑 竜生 (28)	三重	⑥	11	2116562
3	④	大場 敏 (57)	静岡	④	16	214232
4	②	三浦洋次朗 (36)	愛知	②	23	2231241
5	③	星 栄爾 (39)	静岡	③	16	2116151
6	⑤	竹下 大樹 (25)	福岡	⑤	14	3612312
①⑥		2790円(7)	①⑥④	12910円(25)	逃げ	

11/16~20 オレンジリボン運動支援競走 中京スポーツもみじ杯

1	④	松下 一也 (41)	静岡	④	13	16113132
2	①	片橋 幸貴 (36)	滋賀	①	11	2123131
3	③	竹井 貴史 (33)	福岡	③	20	14245131
4	⑥	東本 勝利 (44)	三重	⑥	16	2342512
5	②	仲口 博崇 (52)	愛知	②	19	1414241
6	⑤	藤田 竜弘 (41)	静岡	⑤	14	1224542
④①		1030円(4)	④①③	4180円(14)	まくり	

蒲郡



A 2 級返り咲きも決めた！ 楠原正剛が準完全 V！

28日からの蒲郡トトまるナイト特別は、4日間のシヨートシリーズ。最終日が31日だったこともあり、A1級&A2級ボーターを巡る攻防戦は日増しにヒートアップした。A1級キープを狙った前田翔と初昇格を目指した大場恒季の地元両者は、結果的にフライングをしてしまったが、この悔しさを糧として今期にぶつけて欲しい。一方、諦めモードで参戦したのが楠原正剛。直前の芦屋ではA2級勝負を意識し過ぎて初戦に6コースからコンマ06の勇み足。勝率も一気に5・35まで落とすとしてしまった。ところが、いい具合に力が抜けたのか、初日から3連勝と突っ走り得点率トップ通過。準優、優勝戦を逃げ切り7戦6勝2着1回の準パーフェクトV

11月11日からの蒲郡大賞典は、当地でSGタイトルを持つ今垣光太郎と辻栄蔵が参戦。今垣は02・04年のメモリアルを優勝。辻は間の03年にオーシャンカップを制している。ドリーム戦は、インの辻に対して今垣が3カドからまくり差しを届かせた。このまま今垣が牽引するかに思えたが、辻が勝ち星を量産。最終的には得点率同率で終え、1着本数の差で辻が首位通過を決めた。準優、優勝戦を危なげなく逃げ切った辻は「ガマでしか勝てませんね」と2月に続く当地連続Vにリップサービス。50歳の足音が近づいてきたが、キレ味鋭いコーナー戦は健在だ。

(スポーツ報知・太田和良)

10/20~25 VS第15戦 ムーンライトプリンセス決定戦

1 ① 勝浦 真帆 (28) 岡山	① 01 131511431
2 ③ 倉持 莉々 (31) 東京	④ 11 421335211
3 ⑥ 中谷 朋子 (48) 兵庫	② 12 325124222
4 ② 宇野 弥生 (38) 愛知	③ 09 124153611
5 ④ 前原 哉 (29) 岡山	⑤ 13 431143542
6 ⑤ 山口真喜子 (27) 長崎	⑥ 08 431332442
①③ 460円(1) ①③⑥ 1550円(3) 逃げ	

10/28~31 日刊ゲダイWEB開設記念 蒲郡トトまるナイト特別

1 ① 楠原 正剛 (38) 福岡	① 09 111211
2 ④ 三角 哲男 (57) 東京	④ 20 151222
3 ② 永井 源 (44) 愛知	② 15 131411
4 ⑤ 藤田 浩人 (38) 佐賀	⑤ 24 221312
5 ③ 松本 庸平 (40) 三重	③ 21 222521
6 ⑥ 丹下 健 (44) 愛知	⑥ 24 15142
①④ 450円(2) ①④② 1110円(2) 逃げ	

11/11~16 日刊スポーツ杯争奪 第54回蒲郡大賞典

1 ① 辻 栄蔵 (49) 広島	① 15 2215112121
2 ④ 今垣光太郎 (55) 福岡	④ 14 3122321222
3 ⑤ 古川 誠之 (46) 愛知	⑤ 18 124331212
4 ② 伊藤 将吉 (46) 静岡	② 17 2411512351
5 ⑥ 野末 智一 (45) 静岡	⑥ 36 12244342
6 ③ 中村 尊 (44) 埼玉	③ 11 4521224211
①④ 470円(3) ①④⑤ 1750円(9) 逃げ	

クラシック出場の決定打！ 船岡洋一郎が今年6度目V



とこなめ



船岡洋一郎

10/26~29 日本空調システム杯

1 ① 船岡洋一郎 (37) 広島	① 06 251111
2 ④ 柳沢 一 (43) 愛知	④ 10 312332
3 ② 西橋 奈未 (28) 福井	② 08 241131
4 ⑤ 坪口 竜也 (35) 長崎	⑤ 13 141552
5 ③ 江本 真治 (50) 山口	③ 09 111251
6 ⑥ 櫻本あゆみ (36) 群馬	⑥ 18 223213
①④ 390円(2) ①④② 940円(3) 逃げ	

11/6~9 創刊70周年記念第35回中日スポーツ銀杯争奪戦

1 ① 高憧 四季 (24) 大阪	① 15 112121
2 ⑥ 妹尾 忠幸 (44) 岡山	② 19 165332
3 ② 川原 祐明 (29) 香川	③ 20 121231
4 ⑤ 山下 友貴 (38) 静岡	⑥ 20 22612
5 ④ 黒野 元基 (28) 愛知	⑤ 19 312412
6 ③ 岩川 仁士 (38) 大阪	④ 22 21141
①⑥ 2420円(11) ①⑥② 6270円(23) 逃げ	

10月29日の日本空調システム杯。2日目から4連勝で優勝戦1号艇の座をつかんだ船岡洋一郎。パートナーの15号機はとも2連対率26%とは思えない動きで、行き足から伸びにかけては上位級の仕上がりがだ。加えて優勝戦直前のコメントでは「今日は出足もいい。しつかり優勝したいです」と自信満々の表情を見せた。ただ、優勝戦メンバーには西橋奈未・櫻本あゆみの軽量を武器にする女子選手に、地元のSGレーサー柳沢一と一筋縄ではいかないメンバー構成だ。それでも船岡はインからコンマ06のトップSを決めると1マークは危なげなく逃げ切りに成功。BSで早々と独走態勢を築いた。2コースの西橋は差し漏らして船岡の引き波をなぞってしまふ。ブイ際を差した柳沢が2着。3着は西橋が入線。船岡はこの優勝が今年6回目目々クラシック出場の決定打になった(続く芦屋で7回目V)。

11月9日の中日スポーツ銀杯争奪戦。高憧四季が別格のパワーでシリーズの主役を務めた。近況は勝率の割に低迷していた2号機だったが、高憧は軽量と的確な調整で序盤から他を圧倒する足色を見せた。気がつけばオール2連対で予選・準優をクリア。優勝戦のポールポジションを手に入れた。迎えた優勝戦は進入で一歩乱あった。S展示では枠なり3対3だったが、本番は黒野元基がピット離れで絞め込まれ、大外を嫌って前付け気味に動く。それに抵抗する動きを見せた妹尾忠幸だったが、今度は隙あらばインを奪う姿勢を見せた。これには高憧も船先をねじ入れてインをキープ。高憧は深いイン進入を余儀なくされたが、コンマ15のトップSを決めると、1マークは豪快に回って見事逃げ切りに成功。2コースから差し続いた妹尾が6号艇で2着と大健闘。

(とこなめ情報 土井)

鮮やかまくり差し！ 中嶋健一郎が地元で美酒！



10/25～30 スポーツ報知ビクトリーカップ

1 ⑤ 黒野 元基 (28) 愛知	⑤ 22 431442142
2 ① 渡邊雄一郎 (38) 大阪	① 22 212141311
3 ② 別府 正幸 (45) 埼玉	② 24 232211421
4 ③ 石原 翼 (27) 静岡	③ 30 326112141
5 ⑥ 高橋 龍治 (24) 福岡	⑥ 27 34133142
6 ④ 北村 征嗣 (45) 大阪	④ 25 114533132
⑤① 3210円(9) ⑥①② 14660円(39) まくり差し	

11/3～8 第16回鳥羽一郎杯争奪戦

1 ① 塩田 北斗 (36) 福岡	① 06 411221311
2 ② 中辻 博訓 (50) 福井	② 10 241132141
3 ④ 濱崎 直矢 (41) 埼玉	④ 11 251212262
4 ⑥ 河野 大 (36) 徳島	⑥ 18 114332523
5 ③ 松尾 拓 (36) 三重	③ 17 221414121
6 ⑤ 松村 敏 (41) 福岡	⑤ 13 145211312
①② 200円(1) ①②④ 820円(3) 逃げ	

11/11～16 津PR第4戦津王者決定戦

1 ③ 中嶋健一郎 (35) 三重	③ 07 134332211
2 ① 福来 剛 (43) 東京	① 05 311111121
3 ⑥ 富永 修一 (42) 福岡	⑥ 13 66212112
4 ⑤ 荒川 健太 (44) 三重	⑤ 10 162331442
5 ② 杉山 正樹 (45) 愛知	② 12 161251241
6 ④ 岡崎 恭裕 (37) 福岡	④ 05 222313132
③① 2110円(7) ③①⑥ 19060円(36) まくり差し	

「スポーツ報知ビクトリーカップ」は10月25日から30日までの6日間開催で行われた。シリーズを引っ張ったのは渡邊雄一郎。節間4勝を挙げる活躍で優勝も1号艇を手にした。だが最終日は安定板がつく2周戦。水面状況の悪化が渡邊にはアタとなったか。5コースから攻めた黒野元基がまくり差しからバック内を伸ばした。渡邊は2着までとなり3連単は万穴となる波乱。黒野はこの優勝戦で今年4Vとし、クラシック出場を意識の中へ入れたか。

11月3日からの6日間は「第16回鳥羽一郎杯争奪戦」が行われた。初戦で4着に敗れた塩田北斗だったが、以降は立て直して成功。堅実な足取りで得点率トップに立った。優勝もひとりゼロ台へ飛び込むトップスタートを決め、余裕の先マイを敢行。今年3回目の優勝をあつさり決めた。差しさばいた中辻博訓が道中順走へ持ち込み、本

命サイドとなった。11日から始まった「津PR第4戦津王者決定戦」は、福来剛の独り舞台となった。初戦は3着に敗れたが、後半のドリーム戦をまくり差しで制して勢いに乗ると、4日目までなんと6連勝をマーク。準優でもインからコンマ04と、切れ味あるスタートを決めて7勝目を挙げた。断然の1番人気に推されて登場した優勝戦だったが、勝負事は分らない。福来はコンマ05のスタートを放ったが、ややターンを外してしまった。この隙を見逃さなかった中嶋健一郎が3コースからまくり差しに入りバックで併走へ持ち込んだ。2Mで外マイに出た福来をうまく合わせ、そのまま猛追を封じて優勝。中嶋は今年2回目、通算では9回目の優勝。地元Vは自身初優勝を決めた2015年4月以来、9年半ぶりとなる地元制覇となった。

(中日スポーツ 高橋亮考)



平高奈菜が 得意の三国で復活V！

11月1日から行われた「三国レディースカップ」で得点率上位争いを演じたのは、水相性抜群の平高奈菜と地元藤堂里香の2人。予選ラストで逆転トップに立ったのが平高、2位が藤堂。3日目から4連勝あげた三浦永理が3位。この3選手は準優勝も白星を飾り優出。昨年度当地オールレディース覇者の田口節子が4号艇、初日連勝

4日間の短期決戦「新東通信杯」では、萩原秀人と寺田祥の2強に注目。萩原は予選3位、寺田は1位通過。そこに割って入ったのが地元の松村康太。この3選手が準優勝好枠に構え、人気に応える走りでも優出。外の3選手には地元初優出の佐藤悠、当地連続優出の久田敏之、自身初V目指す一色凌雅だ。迎えた優勝戦。萩原が渾身のまくり差しが突き抜けて優勝。地元のは先輩として意地をみせた。2着は寺田、道中激戦の3着争いは佐藤が制した。

10/23～26 新東通信杯

1 ③ 萩原 秀人 (45) 福井	③ 13 231331
2 ① 寺田 祥 (46) 山口	① 15 3111131
3 ④ 佐藤 悠 (29) 福井	④ 16 12322
4 ② 松村 康太 (41) 福井	② 13 221151
5 ⑤ 久田 敏之 (43) 群馬	⑤ 16 142512
6 ⑥ 一色 凌雅 (25) 愛知	⑥ 21 13432
③① 1230円(5) ③①④ 4060円(15) まくり差し	

11/1～6 オールレディース三国レディースカップ

1 ① 平高 奈菜 (37) 香川	① 06 213141141
2 ③ 三浦 永理 (41) 静岡	③ 13 1231261111
3 ④ 田口 節子 (43) 岡山	④ 12 2113422232
4 ⑤ 今井 裕梨 (40) 群馬	⑤ 14 112362322
5 ② 藤堂 里香 (37) 福井	② 07 121133361
6 ⑥ 勝浦 真帆 (28) 岡山	⑥ 15 362421422
①③ 340円(1) ①③④ 690円(1) 逃げ	

11/11～15 第28回三国ボートレース大賞

1 ② 西野 翔太 (41) 広島	② 09 43122251
2 ① 宇佐見 淳 (43) 愛知	① 10 1213231
3 ④ 小池 哲也 (35) 大阪	④ 08 11422142
4 ⑤ 石渡 鉄兵 (49) 東京	⑤ 07 45211232
5 ⑥ 山田 晃大 (34) 滋賀	⑥ 09 152312
6 ③ 野村 誠 (38) 群馬	③ 18 2143141
②① 1130円(4) ②①④ 2700円(9) 差し	

「三国ボートレース大賞」では混戦の中、メンバー唯一3連対の成績で戦った宇佐見淳が優勝の絶対好枠を獲得。準優を共に差して1着の西野翔太と野村誠が2号艇、3号艇。あとは枠番順に小池哲也、石渡鉄兵、山田晃大が手にした。優勝戦では、西野が差して今年初V。2着に宇佐見、3着に小池が入った。

また、この節で福井支部135期の塩嶋泰空がデビューを果たした。今後とも熱いエールを送ってほしい。

(実況アナウンサー・高橋敬亮)

から勢い守って走った今井裕梨が5号艇、前節に待望の初Vを飾った勝浦真帆が6号艇を獲得した。熱気溢れた優勝戦。地元初Vを狙った藤堂が果敢に攻めるも平高がインから受け止め逃げ、およそ2年半ぶりの優勝を飾った。2着に三浦、3着に田口が入り、3連単は1番人気の決着だった。

びわこ



赤岩善生が3年半ぶりの当地V チャレンジC勝負駆けに成功だ!



赤岩善生

10/24~29 日本財団会長杯

1	①	赤岩 善生 (48)	愛知	①	06	1131112121
2	③	平見 真彦 (35)	愛知	③	12	313213221
3	④	寺田 千恵 (55)	岡山	④	12	4321341262
4	⑤	吉島 祥之 (40)	愛知	⑤	12	231351142
5	⑥	佐々木英樹 (51)	広島	⑥	17	321135262
6	②	濱崎 直矢 (41)	埼玉	②	07	1512111421
		①③④	1180円(4)	逃げ		

11/16~21 近江牛専門店松喜屋牛王杯

1	③	吉田凌太郎 (31)	愛知	④	14	232223211
2	①	石川 真二 (54)	福岡	①	01	111211121
3	⑤	杉山 裕也 (39)	愛知	⑥	16	242344132
4	②	藤原啓史朗 (34)	岡山	③	11	2221312121
5	⑥	藤山 翔太 (33)	大阪	②	12	2643142322
6	④	浜本 裕己 (37)	大阪	⑤	13	32613122
		③①	1660円(6)	③①⑤	7490円(32)	差し

「日本財団会長杯」の最終日は10月29日。予選を首位通過の赤岩善生が準優をイン快勝してここまで10戦7勝、オール3連対でファイナルの1号艇に構える。前検こそ機力不足を口にしたものの、さすがの調整手腕を發揮してパワーアップ。上位級の足色に仕上げて本人も大満足の様子を見せる。ここをVならチャレンジCの出場圏に浮上するとあって気合も文句なしだ。濱崎直矢も中間整備でエース級に変貌した37号機を手にとった。寺田千恵も軽快な仕上がりを武器にV争いに加わりたい。迎えた優勝戦は赤岩がコンマ06のトップSを決めてイン先マイ。全速戦に出た平見がBSでは赤岩の背後まで迫るが、それを抑えて2M先取りの赤岩が2周HSで先行態勢に持ち込む。赤岩は通算114回目、当地では通算100Vを達成した2021年4月以来4回目のV。

11月21日は「近江牛専門店松喜屋牛王杯」の最終日。好素性機の一角41号機を駆る石川真二が10戦8勝、オール2連対と圧倒的な内容で約13年ぶりの当地Vに王手をかけた。ただ当地GⅡ覇者の藤原啓史朗も機力は上位クラスで、藤山翔太、浜本裕己の大阪コンビも仕上がりに自信顔。一方で吉田凌太郎、杉山裕也の愛知勢は気配に不安が残る状況だが、何とか見せ場を作りたいところだ。S展示では藤山がイン奪取も、優勝戦本番はもろろ石川がイン主張で藤原が3カドに引く2対4の進入隊形。コンマ01の気迫Sを決めた石川に対してS後に艇を伸ばした藤原が攻めて出るが、その内から握った藤山と藤原が接触。最内を突いた吉田がBSで石川に並びかけると2Mを先マイへ。差し逆転を狙う石川は及ばず吉田が先行態勢に持ち込んだ。吉田は通算10回目、当地では2回目のV。

(クラ)

通算13度目Vの白神優 うれしい当地初優勝



佳之江



白神優

10/25~29 池田市制85周年記念競走

1	⑤	村岡 賢人 (34)	岡山	⑤	09	6222132
2	④	宮田 龍馬 (26)	兵庫	④	06	1223222
3	③	桐本 康臣 (45)	三重	③	05	2312311
4	⑥	前野 竜一 (44)	山口	⑥	07	1163332
5	②	小野 達哉 (38)	大阪	②	19	2123141
転	①	河村 了 (40)	愛知	①	13	1213141
		⑤④	9280円(17)	⑤④③	76490円(84)	差し

11/16~22 ばんえい十勝杯

1	①	白神 優 (34)	岡山	①	10	3314211331
2	②	大池 佑来 (37)	東京	②	10	5122223151
3	⑤	上條 嘉嗣 (34)	大阪	⑤	17	4631131422
4	③	吉川 喜継 (43)	滋賀	③	12	3441114141
2	④	黒野 元基 (28)	愛知	④	14	2233351152
0	⑥	森野 正弘 (39)	山口	⑥	27	3144251322
		①②	270円(1)	①②⑤	850円(2)	逃げ

10月25日からは5日間シリーズの「池田市政85周年記念競走」が開幕。初日ドリーム戦は地元の小野達哉が人気に添えて快勝。その後も小野は安定した立ち回りで予選を2位で通過するが、首位通過を決めたのは河村了。初走を白星で飾ると予選を4戦2勝のオール3連対にまとめ、桐本康臣までが準優1号艇を手にした。その準優では3選手とも人気に添えて優勝戦に駒を進めたが、優勝戦は波乱の結末が待っていた。スリットでは好枠の河村と小野が立ち遅れると、3コースの桐本が迷わず1Mを絞ってまくるが、少しターンの外側に膨れてしまう。この展開に乗った4枠の宮田龍馬がまくり差し、5枠の村岡賢人が最内を差してバックで先頭争いに浮上すると、2Mを先に回った村岡がリードを広げて勝負が決着。2着に宮田、3着に桐本が続いて、3連単は7万円オーバーの超高配当でシリーズの幕

を閉じた。7日間シリーズで行われた「ばんえい十勝杯」は11月22日が最終日。5日間による予選バトルを制した白神優が準優も逃げ切り優勝戦の1号艇に構える。これまで優出経験さえないエンジンではあったが、巧みな調整手腕を發揮して仕上がりは上々。しかし、2枠に構える大池佑来も伸び中心に好仕上がりで、優勝戦はこの両者の一騎打ちムード。スリットでは両者がトップタイのスタートを決めると、枠番有利に白神が先制する。大池はスツと差しに構えバックでは白神に艇先を伸ばしたがわずかに届かず勝負が決着。2着に大池、3着には上條嘉嗣が続いて2連単は1番人気、3連単は2番人気の本命決着だった。白神はこれが約1年3か月ぶりとなる通算13回目の優勝となったが、当地では嬉しい初の栄冠を掴んだ。(安達弘持)

予選トップ→準優2着も… 細川裕子がまくり差しV奪取!



尼崎



細川裕子



米玉利大悟

地元勢も奮闘した。古賀千晶は伸びを生かして予選クリア。武井莉里佳も2日目以降は機力の底上げに成功して、順当に予選を勝ち上がった。気配は登みひ果が伸びを中心に力強かったが3日目の待機違反(減点7)が響いて、悔しい予選落ちに終わった。準優は予選2、3位の守屋美穂と平山智加が勝ち上がるも、トップだった細川は平田さ

10/26~31 ヴィーナズシリーズ第16戦 尼崎プリンセスカップ

1	④	細川 裕子 (42)	愛知	④	14	2321112112
2	②	平山 智加 (39)	香川	②	15	4421221211
3	①	守屋 美穂 (35)	岡山	①	12	1116311321
4	③	平田 さやか (40)	東京	③	07	151422231
5	⑥	海野 ゆかり (50)	広島	⑥	19	1253124422
6	⑤	藤原 菜希 (38)	東京	⑤	14	1526311512
④②		4580円(12)	④②①	11130円(28)	まくり差し	

やかに中ガマシを浴びてしまい2着に甘んじた。他に藤原菜希と海野ゆかりが優出。激戦ムードが漂う優勝戦だ。
ファイナルの進入は枠なりの3対3。トップスタートを放ち仕掛けた平田が強気に攻めて出る。人気を背負ったイン守屋が抵抗。細川は絶好の差し場を見逃さずまくり差しのハンドル。バックは伸び切り2M先取りに成功。そのままゴールまで駆け抜けた。2コースから素早く差した平山が2着。守屋は猛追したが3着に甘んじた。細川は今年3度目、尼崎では2度目、通算16度目のVを飾った。
【米玉利大悟がデビュー】11月19日には135期の米玉利大悟(よねたまり・だいが)がデビュー。父は園田競馬の厩務員だが、自身は水面の戦いを選択。大いに羽ばたいて、名前をアピールしてもらいたい。
(日刊スポーツ・北條)

鳴門



深インも何のその! 鈴木博がインから押し切った!!

GⅢマスターズリーグ第8戦は惜敗の2着。そして、12Rはシリーズリーダーの秋元がしっかりと押し切った。優勝も人気を集めた秋元はビシッとスタートを決めると、3コースから果敢に攻めてきた畑田に、6コースからチルト3で挑む岡田憲行の攻めを寄せつけず先マイを決めて一人旅。終始、主導権を握っての今年初Vで締めくくった。

5日間シリーズの第8回鳴門天然温泉あらたえの湯なるみ丸カップ競走は終始戦線を引っ張った萩原秀人が今年5回目のV。優勝戦はインに構える萩原に2コースから地元の一宮稔弘がアツと言わせる強攻策だった

記念競走は男女混合の5日間シリーズで行われた。初日のドリム戦をインから速攻で押し切った秋元哲がそのまま戦線を引っ張り得点率トップで予選通過を決めた。安達裕樹が2位となり、高倉孝太が続いてトップ3が決まり、予選通過の18人も出そろった。準優10Rは高倉がインから軽快な機力を味方に逃げ決着。香川素子が2着で紅一点の優出。11Rは畑田汰一が2コースから差し切り、インの安達は惜敗の2着。そして、12Rはシリーズリーダーの秋元がしっかりと押し切った。優勝も人気を集めた秋元はビシッとスタートを決めると、3コースから果敢に攻めてきた畑田に、6コースからチルト3で挑む岡田憲行の攻めを寄せつけず先マイを決めて一人旅。終始、主導権を握っての今年初Vで締めくくった。

10/31~11/4 BTSオラレ美馬開設15周年記念競走

1	①	秋元 哲 (36)	埼玉	①	06	41121161
2	③	畑田 汰一 (26)	埼玉	③	09	55121221
3	⑥	岡田 憲行 (48)	大阪	⑥	07	2255232
4	④	安達 裕樹 (41)	三重	④	05	14214142
5	⑤	香川 素子 (47)	滋賀	⑤	07	22144622
6	②	高倉 孝太 (37)	福井	②	09	2131351
①③		260円(1)	①③⑥	2810円(10)	逃げ	

11/8~13 マスターズリーグ第8戦

1	①	鈴木 博 (55)	埼玉	①	18	121132241
2	②	佐藤 大介 (48)	愛知	②	13	122311331
3	③	上平 真二 (50)	広島	③	15	421231341
4	⑥	佐々木康幸 (51)	静岡	⑥	09	611521222
5	④	赤岩 善生 (48)	愛知	④	12	241112112
6	⑤	高橋 勲 (56)	東京	⑤	10	42214122
①②		360円(1)	①②③	1060円(2)	逃げ	

11/18~22 第8回鳴門天然温泉あらたえの湯なるみ丸カップ競走

1	①	萩原 秀人 (45)	福井	①	04	11213111
2	④	北山 康介 (34)	東京	④	13	12223442
3	⑤	深井 利寿 (50)	滋賀	⑤	14	34132222
4	⑥	黒崎 竜也 (48)	三重	⑥	15	1315422
5	②	一宮 稔弘 (53)	徳島	②	11	3111131
6	③	今泉 友吾 (34)	東京	③	09	13613131
①④		560円(3)	①④⑤	2250円(9)	逃げ	

まるがめ



ドリーム男が最後まで決めた！ 服部幸男が通算107回目V



服部幸男

10/21~27 BTS西予開設9周年記念

1	①	仲谷 颯仁 (30) 福岡	①	18	12412112111
2	④	太田 和美 (51) 大阪	④	17	21111324122
3	③	是澤 孝宏 (39) 滋賀	③	14	12415352311
4	⑤	白神 優 (34) 岡山	⑤	15	13134213142
5	②	竹田 辰也 (40) 山口	②	14	11423144131
6	⑥	興津 藍 (43) 徳島	⑥	21	61364611222
①④ 510円(3) ①④③ 1740円(7) 逃げ					

10/31~11/4 香川県中部ボートレース事業組合56周年記念

1	①	服部 幸男 (53) 静岡	①	16	11522221
2	②	石橋 道友 (42) 長崎	②	12	13612121
3	③	福田 雅一 (56) 香川	③	13	32213341
4	④	山下 流心 (31) 広島	④	17	114342
5	⑤	小山 勉 (38) 埼玉	⑤	17	42511432
6	⑥	芦澤 望 (46) 東京	⑥	19	22163132
①② 220円(1) ①②③ 610円(1) 逃げ					

売り上げ目標額を大きく上回って大盛況だった8月のSGボートレースメモリアル。それに負けないぐらい、吉田裕平のGI初優勝で幕を閉じた「開設72周年記念京極賞」も盛り上がった。節間売り上げは目標額の95億円を大きく上回る101億1639万4700円。いい流れが続いているまるがめブルーナイト。来年2月のGI四国地区選手権、そして5月のSGボートレースオールスターが今から楽しみだ。

10月21日からの「BTS西予開設9周年記念」は7日間のロングラン開催。予選4日間→準優勝進出戦→準優→優勝戦という流れになっていた。初日メインのドリーム戦は、GI京極賞3Vの実績を誇る太田和美がイン完勝。そのまま予選トップから準優勝進出戦も勝ち上がった王道路線を突き進んでいたが、準優の展開が中へこみになる不運。2着通過で優勝戦は4枠になっ

てしまった。流れは予選2位で準優も快勝した仲谷颯仁に一気に傾いた。絶好のイン戦、もちろんこのチャンスを逃すような男ではない。3拍子揃った素晴らしい足で、ファイナルもインから力強く逃げ切り勝ち。今年2回目、ブルーナイト2回目の優勝を決めた。

期またぎの開催となった10月31日からの「香川県中部ボートレース事業組合56周年記念」は5日間シリーズの準優制で行われた。初日ドリーム戦は1枠インの服部幸男がイン速攻を決めて快勝、前半カードと合わせて初日連勝発進の好スタート。その勢いに乗ってV王道路線をばく進。抜群のスリット足で優勝戦1枠を獲得した。最後もインから危なげなく逃げ切って今年初優勝を決めた。通算V回数は107回目。(A)

3カドにも慌てず騒がず 桑原悠が今年4度目V



桑原悠

10/23~28 スポーツニッポン杯

1	①	桑原 悠 (37) 長崎	①	05	612142121
2	④	小林 文彦 (36) 福岡	④	14	111454232
3	⑥	大橋純一郎 (43) 静岡	⑥	15	241353512
4	②	山口 達也 (38) 岡山	②	11	146222121
5	③	岡村 慶太 (36) 福岡	③	08	134215221
6	⑤	宮迫 暢彦 (56) 大阪	⑤	13	221616242
①④ 1070円(3) ①④⑥ 5770円(14) 逃げ					

11/1~5 第6回児島商工会議所会頭賞

1	①	森定 晃史 (42) 岡山	①	08	11353221
2	④	古結 宏 (47) 兵庫	④	21	35213212
3	③	富永 修一 (42) 福岡	③	18	2242441
4	②	伊藤 啓三 (49) 埼玉	②	14	11144311
5	⑤	古川 誠之 (46) 愛知	⑥	18	3242242
6	⑥	関野 文 (31) 大阪	⑤	22	13562312
①④ 320円(2) ①④③ 1540円(4) 逃げ					

11月は改修工事のため、10月3節目の「スポーツニッポン杯」の主役は地元山口の坂元浩仁、桑原悠、岡村慶太が脅かす存在となった。初日は小林文彦が連勝発進。東本勝利が2、1着と手堅い走りを見せた。予選が終わってトップ通過は桑原。2位は山口、3位は岡村が続く、4位は藤崎小百合、6位に土屋美沙希と女子選手の活躍が目立った。準優10Rは岡村が逃げて快勝。11Rは山口が堂々と押し切った。12Rは桑原が危なげなく圧倒した。優勝戦の1号艇を手にした桑原は「準備の足は良かった。行き足、ターン回りが良くて、優勝戦に入っても引けをとることはない」と仕上がりは納得していた。優勝戦の本番は宮本夏樹がピット離れて遅れて6コース回り。そして、小林が3カドに引いたが、イン桑原は互角のスタートを決めて押し切り、今年4回目のVを飾った。

節のみの5日間開催となった。「第6回児島商工会議所会頭賞」の主役は地元森定晃史。GIホルダーの村松修二、近江翔吾が脅かす存在となった。初日の選抜戦を快勝した森定が連勝発進。もう1人、伊藤啓三が連勝で続いた。予選3日目が終わって近江がシリーズリーダーとなり、準優12Rの1号艇を手にした。準優10R1号艇となった伊藤はインから押し切り快勝。準優11R1号艇の森定も堂々と押し切った。準優12Rは1号艇の近江、村松がSで後手となり、水原慎がコンマ04でまくりに出たが、近江がインから応戦。両者が競ったところを富永修一がまくり差し波乱の決着となった。優勝戦の1号艇が転がり込んで来た森定は「足は全部が中堅くらい」と話したが、インからコンマ08のトップSを決めて押し切った。今年8回目の挑戦で初Vを手にした。(S.O)



児島

新エンジン第一弾は 中岡正彦が優勝！



10/20~25 瀬戸内オーシャンズX第31回日本財団会長杯

1	①	中岡 正彦 (47)	香川	①	11	423111131
2	③	山本 寛久 (48)	岡山	③	11	341346111
3	⑤	山崎 郡 (34)	大阪	⑤	11	161332142
4	④	佐藤 博亮 (36)	愛知	④	13	122111442
5	②	天野 友和 (47)	愛知	②	12	212212341
6	⑥	吉田 俊彦 (46)	兵庫	⑥	17	116363212
①③		380円(1)	①③⑤	960円(1)	逃げ	

11/5~10 ポートレース宮島70年ありがとうカップ

1	①	君島 秀三 (44)	滋賀	①	18	113111461
2	⑥	西島 義則 (63)	広島	②	15	262162612
3	②	竹井 貴史 (33)	福岡	③	22	132112351
4	⑤	平田 忠則 (47)	福岡	⑥	42	351342112
5	③	河合 佑樹 (37)	静岡	④	31	141411221
6	④	谷 勝幸 (51)	広島	⑤	28	12522132
①⑥		980円(3)	①⑥②	2380円(6)	逃げ	

11/14~19 ルーキーズシリーズ第19戦第10回スパーJLC杯

1	①	常住 蓮 (23)	佐賀	①	05	143221341
2	③	柳瀬 幹太 (26)	山口	③	11	32432211
3	⑥	飛田 江己 (23)	埼玉	⑥	12	451263132
4	②	荒牧 風沙 (26)	福岡	②	09	25131151
5	④	砂長 知輝 (25)	埼玉	④	18	121161132
6	⑤	大澤 風葵 (23)	群馬	⑤	10	43114122
①③		560円(3)	①③⑥	3910円(16)	逃げ	

新エンジンを導入して争われた10月20日からの「瀬戸内オーシャンズX 日本財団会長杯」は中岡正彦が優勝した。新機、新艇が導入されたとあって注目を集めた前検日だが、大雨の影響でほとんどの選手が回転不足を訴えていた。正味の足色がわからないまま迎えた初日。この日も天候不良は続き、朝から強風が吹き安定板を使用して3R以降は周回短縮で決行。この日のメインレースだった12Rのドリーム戦は4カドの山崎郡が好Sから伸ばして一気まくりを狙うが、好枠インの古結宏が艇を合わせて抵抗しIMは両者流れる。この間隙を突いてまくり差して突き抜けて快勝したのは山田祐也。2着には6号艇で大外だった佐藤博亮が入線し、3着は杉山正樹が食い込み3連単は51612で8万超えの大波乱決着となった。

乱戦となった予選を首位で通過したのは佐藤。しかしながら準備は1号艇インから2着惜敗。この隙を逃さなかったのが中岡。予選は3日目から4連勝と怒涛の追い上げで2位通過。準備もしつかり押し切り優勝戦絶好枠を手にとると、V本番は危なげなく速攻を決めて今年2度目の優勝を果たした。

エンジン相手を振り返るとドリーム戦で見せ場を作った山崎の行き足と優勝した中岡のパワーはもろもろ目立っていたが、序盤から伸びていた永井亮次と予選道中でFとなった杉山の足色が総合力では光っていた。この原稿を執筆している現段階で3節が終了。ここまでの流れを見るとエンジン差の特徴として上位層、中堅層、下位層の各層間での開きがかなりあるように思える。現時点で上位に位置するエンジンは、例年の宮島の傾向として半年ほどは猛威を振るいそうなので注目しておこう。

(BR宮島専属記者・宮崎経督)



トップSからのカド強攻！ 秋山広一が約3年ぶり美酒

10月26日から31日までの「にっぽん未来プロジェクト競走」は高野哲史の優勝で閉幕した。機力面ではなかなか調子は上がらなかつたが持ち前のさばき力を発揮して優勝戦は好枠をゲット。その優勝戦ではコンマ00のタッチスタートからのイン逃げだった。「スタートは本当に分かっていませんでした。残っていて良かった」とホッとした表情で今年3度目のVを喜んだ。

11月6日からは「マンズリーBOATRACE杯争奪戦」が10日までの5日間開催で行われた。地元末永祐輝が予選を1位通過と奮起。優勝戦の1枠を手にした。約2年ぶりのVへ気合はパンパンだったが、優勝戦では惜しくも競り負け2着に終わった。そして激戦を制して優勝したのは秋山広一。優勝戦では4カドからコンマ07のトップスタートを決めてまくり先制。インの末永も持ち直して2Mを先に回ったが、秋山は冷静に差

して抜け出した。これが21年10月以来、約3年ぶりのV。レース後は「久しぶりすぎて優勝の感覚なんて覚えていないけど、うれしいですね」と表情が緩んだ。一方、あと一歩で地元Vを逃した末永は「失敗です。足は良かったんですが」と唇を噛んだ。

11月13日からは「中日スポーツ杯争奪戦」が6日間シリーズで行われた。今年8Vと絶好調の菅章哉が優勝争いの中心的存在と思われたが、チルト2が最大となる徳山では威力を發揮できずに予選敗退に終わった。そんな中、安定した成績で1位通過を果たしたのが一瀬明。軽快な出足を武器に、優勝戦でもイン速攻で快勝。今年初Vを飾ってしまうが「最近、調子が悪かったけど、エンジンが出れば活躍できることが分かったから、また頑張ります」とA1級へ再出発を誓った。

(日刊・測上)

10/26~31 にっぽん未来プロジェクト競走in徳山

1	①	高野 哲史 (35)	兵庫	①	00	211411431
2	④	作間 章 (45)	東京	④	15	433123122
3	②	益田 啓司 (45)	福岡	③	05	112541131
4	③	上平 真二 (50)	広島	②	18	411132241
5	⑥	伊藤 将吉 (46)	静岡	⑥	15	322165112
6	⑤	前田 篤哉 (27)	愛知	⑤	16	222525162
①④		880円(4)	①④②	2700円(10)	逃げ	

11/6~10 マンズリー-BOATRACE杯争奪戦

1	④	秋山 広一 (49)	香川	④	07	12123552
2	①	末永 祐輝 (37)	山口	①	13	2151131
3	②	三川 昂暁 (35)	福岡	②	15	3211231
4	③	仲口 博崇 (52)	愛知	③	19	5531211
5	⑥	吉永 則雄 (45)	大阪	⑥	09	11543112
6	⑤	中村 泰平 (28)	愛知	⑤	14	11363122
④①		4950円(9)	④①②	21780円(36)	抜き	

11/13~18 中日スポーツ杯争奪戦

1	①	一瀬 明 (53)	東京	①	12	133112131
2	②	岡村 仁 (40)	大阪	②	09	223123351
3	④	江本 真治 (50)	山口	④	11	122311312
4	⑤	高倉 和士 (33)	福岡	⑤	09	513231242
5	③	永井 源 (44)	愛知	③	15	141232111
6	⑥	澤 大介 (52)	三重	⑥	09	323215132
①②		450円(2)	①②④	1580円(5)	逃げ	

下関



チルトの魔術師・菅章哉 変幻自在に今年V8!



菅章哉

10/21~26 につぼん未来プロジェクト競走in下関

1	①	野中 一平 (30)	愛知	①	02	351114211
2	②	松本 一毅 (30)	大阪	②	17	23231431
3	③	海野康志郎 (36)	山口	③	11	311122111
4	④	田中信一郎 (51)	大阪	④	14	222431142
5	⑤	未永 和也 (25)	佐賀	⑤	12	233611312
6	⑥	牧原 崇 (41)	愛知	⑥	20	11542522
		①②	470円(2)	①②③	1120円(4)	逃げ

10/30~11/2 創刊75周年記念 日刊スポーツ杯

1	②	菅 章哉 (36)	徳島	③	13	421611
2	③	渡邊 翼 (33)	山口	④	12	43121
3	⑤	上村 純一 (44)	群馬	⑤	20	154112
4	①	清水 敦揮 (43)	岡山	①	16	142341
5	⑥	佐々木裕美 (45)	山口	⑥	21	26122
6	④	大神 康司 (52)	福岡	②	18	12352
		②③	610円(2)	②③⑤	1610円(2)	まくり

10月21日に開幕した「につぼん未来プロジェクト競走in下関」の6日間シリーズ。今年は当地7度目の参戦となった地元海野康志郎がドリフト戦を十八番の3コースまくり差して田中信一郎のイン戦を破り快勝。その後も戦線をリードし「優勝しか目指していない」と今年5Vへ並々ならぬ闘志を燃やしていたが、4日目予選ラストで不良航法が取られて準優1枠を逃した。代わって予選トップに立ったのは下出卓矢だったが、準優は3着に敗れ優出を逃してしまった。予選2位の田中も準優で2着に敗れてしまい、優勝戦1枠が転がり込んできたのが野中一平。この絶好機は逃さない。インからコマ02のトップSを踏み込んで悠々と先マイ自身通算11回目の優勝を達成した。

調男の菅章哉が持ち味を存分に発揮した。近況の動きはあまり芳しくない50号機を引いてしまいい、初戦は3コースから4着。「チルト0度の調整にしたけれど、伸びはまくり切れるほどじゃなかったし、出足はしっかりなかった。トータルで中堅はないです」と機力はひと息。その懸念が悪い形で当たってしまった、1枠だったドリフト戦は渡邊雄朗にまくり差されてしまい2着に終わった。ただ、ここから今年の菅の真骨頂。予選ラストをチルト3度のカドまくりを決めて予選を4位で突破。準優勝戦では大神康司のイン戦を2コース差して破って優出に成功し、機力も伸びを中心に上位クラスに仕上げた。優勝戦ではチルト0度を選択し、3コースローから一気にまくり勝負あり。前節のからつから連続となる今年8回目、通算29回目の優勝を成し遂げた。

(西日本スポーツ・岡部)

お盆戦V機は絶好調 雑賀勇貴が通算3度目V



若松

10/28~31 若松夜王S第2戦デイリースポーツ杯若松ダービー

1	④	雑賀 勇貴 (33)	大阪	⑤	13	41122
2	⑥	堀本 和也 (35)	徳島	⑥	09	341622
3	⑤	間嶋 仁志 (55)	三重	④	13	223342
4	①	溝口海義也 (29)	福岡	①	12	211131
5	②	北川 潤二 (42)	愛知	②	13	112651
6	③	竹田 和哉 (30)	香川	③	25	421221
		④⑥	1930円(9)	④⑥⑤	16480円(46)	まくり差し

11/5~10 外向発売所リニューアルオープン記念競走

1	①	金子 拓矢 (41)	群馬	①	04	232122151
2	⑥	山本 修一 (44)	岡山	⑥	08	361542122
3	②	永田 啓二 (40)	福岡	②	04	114331131
4	③	長岡 良也 (40)	兵庫	③	03	341313121
5	⑤	山ノ内雅人 (33)	福岡	⑤	03	132154232
6	④	戸敷 晃美 (28)	福岡	④	04	11244122
		①⑥	2220円(6)	①⑥②	7110円(21)	逃げ

11/13~18 東龍軒カップ

1	①	井上 忠政 (28)	大阪	①	15	212224511
2	⑤	清水 敦揮 (43)	岡山	⑤	14	2413211沈2
3	②	前田 聖文 (36)	愛知	②	15	152161251
4	⑥	河野 真也 (35)	福岡	⑥	18	323531512
5	③	秋元 哲 (36)	埼玉	③	15	164363121
6	④	長尾 章平 (39)	山口	④	15	122211632
		①⑤	780円(4)	①⑤②	1820円(7)	逃げ

【10月28日~31日】今垣光太郎が主役で登場するも、抽選運に恵まれず苦戦を強いられ、まさかの優出失敗。地元溝口海義也がドリフト戦1号艇に指名され予選をトップ通過。2日目の予選後のレースも1号艇をもらったことで準優、優勝戦と4日間短期決戦で4日連続1号艇だったが、最後の最後でインから敗れ、地元初優勝を逃した。優勝は雑賀勇貴。西山貴浩のお盆準完全優勝エンジンを手にして2日目から本格化。最後は節イチパワーに仕上げ、優勝戦は間嶋仁志のまくりを5コースから差し切った。通算3回目の優出で2回目の優勝を飾った。

【11月5日~10日】クラシック出場へダメ押し今年6回目の優勝を目指して乗り込んできたのがSG初出場だった戸田ダービー帰りの永田啓二。伸び型の上位機を手にして王道優勝へ突き進むかと思われたが、突き抜けたパワーに仕上がらず予選2位で優勝戦も3着。ドリフト組では金子拓矢も上位機を手にしており、日々パワーアップさせて予選をトップ通過。優勝戦でも永田の2コースツケマイを振り切って優勝した。女子では戸敷晃美が石丸小楨とともに節イチ級に仕上げ優出。常滑での初優勝以来、これが2回目の優出とは意外だった。

(スポーツ報知・井上誠之)



芦屋

通算19度目の優出でついに！ 井本昌也が嬉しいデビュー初V

10/25~30 BTSオラレ日南開設13周年記念

1	④	井本 昌也 (27)	山口	④	15	122142662
2	①	上條 嘉嗣 (34)	大阪	①	19	122115131
3	③	吉永 則雄 (45)	大阪	③	17	112662321
4	⑤	天野 晶夫 (50)	愛知	⑤	17	333242232
5	⑥	田頭 虎規 (26)	香川	⑥	23	544332112
6	②	松尾 昂明 (39)	福岡	②	35	126611211
④① 2710円(8) ④①③ 11150円(29) まくり						

11/5~10 KBCラジオ杯

1	①	船岡洋一郎 (37)	広島	①	06	131112151
2	②	秋山 直之 (45)	群馬	②	10	111231251
3	④	村岡 賢人 (34)	岡山	④	11	163121412
4	③	前田 篤哉 (27)	愛知	③	11	351112321
5	⑥	渡邊雄一郎 (38)	大阪	⑥	14	125211542
6	⑤	西村 歩 (38)	大阪	⑤	19	321432242
①② 300円(1) ①②④ 740円(1) 逃げ						

11/16~20 BTS宮崎開設10周年記念

1	①	笠原 亮 (44)	静岡	①	04	21121321
2	④	渡邊 和将 (34)	岡山	④	07	2222122
3	⑥	吉島 祥之 (40)	愛知	⑥	09	1424112
4	③	浅見 昌克 (55)	埼玉	③	06	2114411
5	⑤	白水 勝也 (52)	福岡	⑤	06	1123312
転	②	川原 祐明 (29)	香川	②	07	2112511
①④ 360円(2) ①④⑥ 3260円(13) 逃げ						

10月30日が最終日だった「BTSオラレ日南開設13周年記念」は1月から適用される2025年前期勝率の選考最終日前日でもあり、優勝戦に乗った地元の松尾昂明がA1級勝負駆けだつた。ただ、その松尾は下力遅れで6着になってしまい勝負駆けは失敗に終わった。優勝したのはカドからトップSを決めて握って行った井本昌也。井本は今年だけで9回目、通算では19回目の優出にしてうれしいデビュー初V。「本当にそろそろ勝ちたいんです。優出はできていないのに優勝できていないのが恥ずかしくなってます。優出はありますから(笑)」と優勝だけを狙った渾身の攻めがはまった。10日が最終日の「KBCラジオ杯」から温水パイプを装着。温水パイプはエンジンパワーの低下にもつながるが、その効果よりも気温の低下や高気圧の影響の方が大きく「回り過ぎ」と語る選手が多数。準優勝だった秋

山直之が現行エンジンの最速タイムを大きく塗り替えるなど、強力なパワーを誇る選手が多かった。そんな中で優勝を飾ったのは「中堅上位で伸びは上がっている」と語っていた船岡洋一郎だった。予選トップ通過から準優勝戦ともに単独で0台を踏み込み速攻での王道V。三国、常滑に続く3節連続で優勝戦1号艇から逃げて優勝をつかみ、今年V数を7とした。11月16日が初日の「BTS宮崎開設10周年記念」は20日が最終日。準優勝は10Rで小野達哉が着外、11Rで渡邊和将が2着と1号艇が連続で勝ち切れなかったが、シリーズリーダーの笠原亮だけが12Rできっちり逃げ切った。優勝戦もコマ04のSから他艇に何もさせない完勝劇。レースの内容も結果も、前節の桐生で勝ち切れなかったリベンジを果たしてみせた。(スポーツ報知・井上)



文句なしの節イチ仕立て！ 原田才一郎が福岡3場で初優勝！

11月5日に開幕した「ルーキーシリーズ第18戦・スカパー！JLC杯」は、地元の原田才一郎が文句なしの節イチパワーで圧倒した。通算4回目の優勝。地元福岡3場ではうれしい初Vとなった。「先輩たちが、地元、地元」という理由がよく分かりました。今までの優勝とは違います。格別ですわね」と笑顔でファンから送られる声援と拍手を受け止めた。低調機シリーズの中では上位に分類される66号機を引けたのも大きかったが、福岡のような特殊な水面のルーキー戦は経験値の差が如実に成績に表れやすい。

原田は今年4回目の当地戦で直近2節で優出。調整のアドバンテージを生かして見事な抜群足に仕上げた。当地ルーキー戦は20年12月に中田達也さんも手にしたタイトル。シリーズ2日目に中田さんの3回忌を迎えたこともモチベーションの一つになった。「自分がB2級の時から練習、レースと一緒に走って背中を見せてくれた。今度は自分が後輩たちに背中を見せて引張っていかないと。来年は記念にも行きたいし、もっと成長したいですね」と話した。この先の飛躍を期待したい。



原田才一郎

10/26~31 マスターズ第7戦マンスリーBOATRACE杯

1	①	山本 隆幸 (47)	兵庫	①	05	311321121
2	④	西島 義則 (63)	広島	④	09	121121122
3	③	佐々木康幸 (51)	静岡	③	09	134362221
4	⑤	渡邊伸太郎 (57)	佐賀	⑤	11	154234232
5	②	新田 智彰 (51)	大阪	②	13	321441311
6	⑥	富永 正人 (51)	埼玉	⑥	09	352224412
①④ 330円(2) ①④③ 1080円(2) 逃げ						

11/5~10 ルーキーシリーズ第18戦・スカパー！JLC杯

1	①	原田才一郎 (28)	福岡	①	08	211421131
2	④	松本 純平 (29)	埼玉	④	11	161143212
3	②	佐々木翔斗 (28)	大阪	②	08	412312121
4	③	中野 仁照 (23)	愛知	③	07	413313441
5	⑤	篠原 晟彦 (23)	福岡	⑤	09	115113312
6	⑥	豊田健士郎 (28)	三重	⑥	21	322241432
①④ 370円(2) ①④② 1090円(3) 逃げ						

10月26日に開幕した「マスターズ第7戦マンスリーBOATRACE杯」は、終盤戦にドラマが待っていた。シリーズを引っ張ったのは西島義則。予選トップ通過を果たし、24場全場制覇に王手をかけるかに思われたが、準優勝はウネリに泣いて痛恨の2着優出。準優勝を唯一逃げた山本隆幸が優勝戦1枠を獲得。最後はイン死守からコマ05の鋭発を決めて逃走。福岡では07年11月以来、17年ぶり2回目のVを飾った。12月の周年記念も山本が引いたエース24号機を誰が手にするか、注目が集まる。(スポーツニッポン・鳥飼)



大競りの間隙をズフリ！ 前田滉が大外から突き抜けた！



前田滉

10/28~31 第9回楽天

1	⑥	前田 滉 (24)	愛知	⑥	06	256152
2	③	島川 光男 (59)	広島	③	10	422111
3	④	寺本 重宣 (44)	東京	④	15	241352
4	②	向井 美鈴 (44)	山口	②	20	161221
5	⑤	泥谷 一毅 (43)	大阪	⑤	17	32232
6	①	北山 康介 (34)	東京	①	16	113211
⑥③ 9870円(21) ⑥③④ 84880円(91) まくり差し						

11/14~17 Pay Pay 銀行杯

1	③	市橋 卓士 (45)	徳島	③	17	132251
2	④	是澤 孝宏 (39)	滋賀	④	15	164112
3	②	深川 真二 (50)	佐賀	②	15	211531
4	①	野口 勝弘 (37)	愛知	①	11	411141
5	⑥	田中太一郎 (42)	佐賀	⑥	12	43212
6	⑤	葛原 大陽 (41)	徳島	⑤	14	134222
③④ 4170円(11) ③④② 13190円(36) まくり						

「第9回楽天銀行杯」は男女混合の4日間シリーズ。最終日は10月31日で、級別争いの締め切りでもあった。A1級は向井美鈴、泥谷一毅、松尾夏海、川原祐明、A2級は酒見峻介と山崎昂介が最後の勝負駆けに挑んだ。6人の中から向井と泥谷はファイナル入り。

泣き笑いが待つ最終日に臨んだ面々。優勝戦に臨んだ向井は4着で勝率6・21、5着の泥谷は6・19。泥谷はギリギリポーターで13期ぶりのA1級復帰を決めた。3、4着の松尾は6・16、川原は連勝と気を吐いたが6・17でわずかに届かず。2連対にまとめた酒見と山崎昂はポーターの5・46を上回りA2級入りを果たした。

北山康介が1号艇だった優勝戦は波乱の結末。スタート後に3コースの島川光男と大外の前田滉が伸びる。センターからまくりを狙った島川はイン北山に応戦され、大外から好展開を見

逃さなかった前田がまくり差しから前に出る。乗り心地重視が好を奏して、からつ初優出で初優勝を達成。今年は2回目、通算では7回目のVを飾った。「Pay Pay 銀行杯」も男女混合の短期決戦。今節から温水パイプが装着された。V候補に明暗で、深川真二は低調機を引き上げて出足は及第点レベル。対照的に塩田北斗(帰郷)はシリンドラーケース、ピストン、リングのセット交換を施したが、反応はなく舟足はワースト級。精彩を欠いてしまった。

(報知・高木)

当地初登場の山口晃朋 SG準V機を手にデビュー初V



10/26~31 ルーキーズ第17戦 スカパーJ.L.C杯

1	④	飛田 江己 (23)	埼玉	④	03	315312112
2	⑤	常住 蓮 (23)	佐賀	⑤	09	31251632
3	①	新開 航 (28)	福岡	①	17	23211141
4	②	中村 日向 (25)	香川	②	18	11142311
5	⑥	久永 祥平 (29)	東京	⑥	08	124353312
6	③	安河内 健 (29)	佐賀	③	19	24211311
④⑤ 4830円(10) ④⑤① 13830円(31) 抜き						

11/3~8 創刊75周年記念 日刊スポーツ杯&ニッカンコム杯

1	③	山口 晃朋 (23)	静岡	④	09	11332531
2	②	山口真喜子 (27)	長崎	③	06	312114321
3	⑥	前野 竜一 (44)	山口	⑥	13	42514312
4	⑤	吉田 光 (49)	佐賀	②	04	32333452
5	④	東本 勝利 (44)	三重	⑤	14	33231312
F	①	竹田 辰也 (40)	山口	①	+02	16212131
③② 830円(3) ③②⑥ 1750円(4) 恵まれ						

11/15~18 日本MB選手会会長杯

1	③	妹尾 忠幸 (44)	岡山	③	10	24212
2	⑥	佐々木完太 (28)	山口	⑥	13	261524
3	②	村松 修二 (33)	広島	②	09	21211
4	⑤	山崎 裕司 (42)	広島	⑤	13	12622
5	①	今井 貴士 (40)	福岡	①	15	121251
6	④	榎 幸司 (42)	長崎	④	13	144332
③⑥ 8890円(16) ③⑥② 41250円(55) 差し						

「10月26~31日」エース32号機を引き当てた中村日向が節一の仕上げ。出足、回り足がすごかった。一方、桐生GIVで乗り込んできた新開航は勝率こそ低いが機歴は中堅上位。レースのうまさを発揮して、予選を1位で通過した。2位は中村、3位は地元の本村大だった。準優では本村が脱落したものの、新開と中村は優出。優勝戦は1、2号艇の2人が人気を集めたが、最後は波乱。期末最後のレースということもあり、ただ1人Fなしの飛田江己が4カドから飛び出した。1Mはまくり、5コース常住蓮が差して追ったが、2Mで差して逆転勝ち。

「11月3~8日」節一は当地初登場の山口晃朋。18号機はオーシヤンCで山口剛が準V。前操者の服部幸男も行き足から伸びに威力があった。準優では3コースまくりで江口晃生を沈めた。予選1位で準優を逃げた竹田辰也は「準優の山口君の足を見たらビビります」とレース後に戦々恐々のコメント。優勝戦は吉田光の前付けもあって竹田は楽なインにはならなかったが、スタートを踏み込んだ。しかし、プラス02の勇み足。3コースから山口真喜子がまくったものの、4カドの山口晃がまくり差し。恵まれとはいえ、初優出初Vの快挙となった。

「11月15~18日」予選2位だった石橋道友が準優前のレースで痛恨のF。準優は逃げたがもちろん賞典レースは除外だ。同レースで3着だった河野大は不良航法。4位の佐々木完太が繰り上がった。予選1位からの王道Vを狙ったのが大村好相性の今井貴士。しかし、優勝戦はスタートがバチバチ決まっていた2コース村松修二が09のタイミングからまくり。「予想していなかった展開」と驚いた妹尾忠幸だが冷静に3コースから差し抜けて優勝。(報知・長谷)